

子どもの質問に着目したソーシャル絵本推薦システム

柿島 大貴

豊かな読書生活を送るために、幼児期に子どもが絵本と出会う機会は重要な役割を果たすとされている。特に、子どもが興味を持って絵本に接することの必要性が指摘されていることから、子ども一人ひとりに合わせた絵本の推薦方法が模索されている。しかしながら、これまでに提案された推薦手法には、読み聞かせ時の子どもの反応を利用するため記録・分析の負担が大きいという問題がある。そこで本研究では、親の負担が少ない方法で絵本推薦を実現することを目的として、子どもの質問に着目したソーシャル絵本推薦システム「ぴくぶく」の開発を行った。

本システムには、子どもの質問を投稿する機能と、質問に対して絵本を推薦する機能がある。利用者は、他の利用者の子どもの質問を閲覧できるようになっており、質問に対しておすすめの絵本を Amazon で検索して推薦することができる。お互いに推薦しあうソーシャルな仕組みをとることで、質問を投稿した利用者は、他の利用者の知識と経験を生かした絵本の推薦を受けることができる。

本システムの有効性を検証するために、システム利用実験を実施した。対象は3歳から6歳の子どもの持つ親25名、期間は2010年10月22日から11月22日までの1ヶ月間である。実験の結果、期間中に質問の投稿が236回、絵本の推薦が117回行われ、25名中21名(84%)に絵本が推薦された。また、推薦された絵本を読んだ11名の読書記録から、読んだ絵本20冊のうち19冊(95%)の絵本で子どもが喜ぶ反応を示したことがわかった。一方、システムの印象に関するアンケート結果から、24名(96%)の親が操作を簡単だと感じ、22名(88%)の親が楽しいと感じたことがわかった。また、「子どもの発言を注意深く聞くようになった」といった意見が多く見られるなど、このような質問の記録・共有に育児支援効果があることも示唆された。

本研究により、子どもの質問を利用することで、親の負担が少ない方法での絵本推薦を実現できた。さらに、親が質問の記録や共有を楽しむといった付加価値も生まれ、ソーシャルな推薦システムとして機能する可能性を示すことができた。今後の課題は、コンテンツベースフィルタリングの実装による推薦率の向上と、システムの効果の詳細な検証である。

(指導教員 松村敦)